



ワクワクの先に、まちへの誇り

ーフェス起点で全世代が共創する蘇我インクルーシブプロジェクトー



写真の説明(インクルーシブ体験ツアー)

■協働・共創団体の種別

NPO	地縁	社協	学校・大学	企業	行政	その他
-----	----	----	-------	----	----	-----

■協働・共創団体

- NPO 法人フェスのまち蘇我
- 千葉県立蘇我小学校
- 株式会社オブテイン(ピザラ蘇我店)
- 岩淵薬品株式会社
- 株式会社千葉興業銀行
- 縁がわ・縁がわキッズ
- ジェフユナイテッド株式会社
- JFE スチール株式会社東日本製鉄所(千葉地区)
- 株式会社ロッキング・オン・ジャパン

計9団体

■事業費 2,176,106 円

■資金調達手段

委託料(株式会社ロッキング・オン・ジャパン)・寄附

事業概要

当法人は、学校・福祉・企業と協働し、大規模フェスを地域資源と捉えた「3 本立ての連動事業」を展開した。

1. 大学生×放課後等デイサービスによる、合理的配慮(イヤーマフ等)を施し体験格差を解消する「インクルーシブ体験ツアー」。
2. 蘇我小 6 年生 96 名が地元企業ピザラ等と地産地消ピザを開発し、1,200 名を集客したキャリア教育・場外イベント「FES CITY SOGA GATE 3rd」。
3. 児童・学生・企業・住民が一体となり、駅からの動線や路地裏の清掃・夜間警備を徹底する「おもてなし美化・地域見守り活動」。

協働・共創までの経緯

当法人の目の前には、日本一のフェスという最高のワクワクする材料があります。しかし現状、この素晴らしい資産が地域に還元されず「外部のイベント」として放置されており、教育や福祉の現場で活用したくても主体的に関わる機会がない課題がありました。子どもたちの純粋な「やりたい!」という熱意や、誰もが楽しめる空間を地域に実現したい。しかし、当法人や学校単体の力だけでは、その想いを本物の形にするには到底及ばないという力不足の限界に突き当たりました。そこで私たちは、このワクワクに共感してくれる地元の企業や福祉のプロの力を借り、本気で「頼る」ことから始めました。自分たちの弱さを認めてプロの専門性を徹底的に頼り切る。この一步を踏み出したことから、垣根を越えた真の地域共創が動き出しました。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①(春フェス期・4 月～5 月)春のフェス開催に向けた大学生ボランティアの募集・育成、蘇我小での出前授業及びツアー・場外イベントの開催・おもてなし美化地域見守り活動の実施。
- ②(夏フェス期・6 月～8 月)夏のフェス開催に向けた企業連携プレゼン準備、地域お祭りイベントへの参画及び各フェス連動事業の取組み・おもてなし美化地域見守り活動。
- ③(事後・秋～冬期・9 月～3 月)活動報告会への参加及び学生ボランティア交流会の開催

※上記の他、随時、地域のリアルな声をフェス主催者へ繋ぐ架け橋活動、及び地域お祭りイベント等への参画を行っています。

協働・共創団体内での役割分担

① NPO法人フェスのまち蘇我

当法人の力不足を補うためプロを繋ぐハブに徹しました。主催者や各主体との泥臭い現場調整、出前授業や企業マッチング、150名を超える学生ボランティアの育成を担いました。

② 千葉市立蘇我小学校

NPO単体では入れない公教育の場を開放し、児童96名の「やりたい」を引き出す指導のプロとして頼りました。「総合的な学習の時間」のカリキュラム運営を主導しました。

③ 縁がわ・縁がわキッズ

安全面への我々の不安に対し、個々に寄り添う合理的配慮を実装する療育のプロとして頼りました。参加家族の選定や必要な配慮の事前共有、当日の安全見守りを担いました。

④ 協力企業・スポーツ団体(ピザラ等)

子どもの純粋な発想に対し、それらを本物の形にするビジネスのプロとして頼りました。地産地消ピザの共同開発やプロの専門技術、機材や場所を提供し、挑戦を支えました。

協働・共創事業によって生まれた成果

1. 「インクルーシブ体験ツアー」による参加格差の解消と当事者の意識変革

大音量や人混みを理由にフェスへの参加を諦めていた家族が、適切なサポートのもとで安心してイベントを満喫できる環境を創出し、体験の格差を解消した点。これにより、保護者をはじめとする大人がフェスや蘇我のまちが持つバリアフリーへの可能性や素晴らしさを再認識する契機となった点。

2. 「キャリア教育場外イベント」における児童の成功体験と地域資源の創出

児童が自ら考案した千葉県産食材(チーバベリーや千葉大はちみつ等)活用のピザ販売、オリジナルTシャツの制作・販売、遊び場運営などを場外イベントで実践し、1,200名の集客を達成した。

また、児童が考案した蘇我のキャッチコピー『フェス。鉄。ジェフ。ぜんぶ蘇我。ぜんぶ熱い。』は、子どもたちの目線から地域の魅力を端的に表現したものである。これは蘇我のPR映像や横断幕などの動線デコレーションにも広く活用された。

児童が一連の制作や運営を通じ、「自らの力で社会やイベントを動かした」という確かな成功体験を得るとともに、地域への愛着と誇り(シビックプライド)を醸成した点。

3. メディア露出による地域全体の価値再認識とシビックプライドの醸成

昨年のNHK首都圏ネットワークに始まり、千葉テレビやJ:COM等のメディアで本事業の取り組みが広く放映された点。これにより、イベントに直接参加した層だけでなく、蘇我の住民全体が「フェスの街」としての地域価値や活動の意義を客観的に再認識し、まちへの愛着を高めるきっかけを生み出した点。

今後力を入れていきたいこと

1. 既存アセットの活用と小学校への定着(教育課程の代替)

追加予算をかけず、フェスを地元小学校の「総合的な学習の時間」へ正式に組み込み、既存の授業内容を代替。地域に根付いた持続可能な常設型教育プログラムへと昇華させます。

2. 「ワクワク」の追求による担い手層の循環と拡大

福祉の子どもたちを支援される側から場を迎える「主体」へステップアップ。その熱量を呼び水に、不登校の若者や高齢者も巻き込む包括的な居場所をまちの中に創出します。

コラボのコツ!!

★コツ1: 地域の「プロ」を本気で頼り切る

自分たちの不足を認め、地域に存在する強力な企業の専門性や経営資源を改めて認識し、徹底的に頼り切ること。リスペクトを持ってプロの力を借りることで、NPO単体では決して届かないクオリティを実現しました。

★コツ2: 日本最大のフェスを能動的に「活用」し、 教育・福祉と掛け合わせる

巨大な地域資源を受動的に受け入れる(我慢・消費する)対象にせず、「どう活用できるか」を能動的に考え抜くこと。この資源を教育現場の熱意や福祉の必要性と掛け合わせました。

★コツ3: 「ワクワク」を合言葉に、地域の負の側面さえも プラスへ昇華する

単なるゴミ拾いや夜間警備という義務的な作業を、来場者との温かい交流(おもてなし)や、自分たちの街を深く知る「ワクワクするきっかけ」へと変えること。すべての活動を前向きなエネルギーへ昇華させる仕掛けが重要です。

別添様式 事例紹介用調書

3.共創モデルの価値発信による全国への波及

学校・福祉・企業・行政が一体となった蘇我発の共創の仕組みを愚直に継続・発信。千葉から全国のイベント開催地域へ広がる「全国教育共創モデル」の指標を目指します。



<おもてなし美化・地域見守り活動>



<キャリア教育・場外イベント>

協働・共創事例プロフィール

【活動開始年】2024年2月 【活動のPR手法】ホームページ・SNS(<https://fescitysoga.org/>)

【この事業で活用した補助金】 千葉市中央区自主企画事業補助金(令和6年度15万、令和7年度20万)

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 表彰歴なし / 千葉日報(2024年5月、2024年8月、2025年10月)

ちいき新聞(2024年9月)/読売新聞(2024年8月)/NHK首都圏ネットワーク(2025年10月)、

千葉テレビ、J:COM(2026年5月)で放映

【問い合わせ先】担当者:松島 電話番号:080-8494-7630 メールアドレス: matsushima@fescitysoga.org